



串良バイパス (串良町岡崎)

昔 昭和47年



今



串良町の市街地を通る国道220号線はカーブが多いうえに道幅が狭く、渋滞と交通事故が多発していました。これを受けて、バイパス建設のための用地取得が昭和43年から始まり、昭和47年10月に開通しました。現在の道路沿いの様子は当時と様変わりしましたが、約50年経った今でも大隅の主要道として活用されています。



慶応3年(1867年)には、串良方面から取り締まりの厳格化が進んでいき、ついに源九郎も捕らわれの身となりました。取り調べでは、拷問を受けながらも信者であることや証拠を隠滅したことを白状しなかったため、娘のツル

江戸時代に一向宗(浄土真宗)を信仰することは厳しく禁止され、信者たちは役人の目を逃れて山奥や谷間、洞窟など人里離れたところで仏像を拝み、声を殺しながら経典を読み念仏を唱えていました。一向宗に対する迫害は年を追うごとに厳しくなり、輝北地域でも役人による取り締まりが始まりました。そのような中、地域で最も信心深いとされた哥丸源九郎は身命を賭けて仏像や経典、仏具等を守り通すことを決意。あらゆるところに隠しましたが、限界を感じたため仲間と協議し、これらを一時的に土の中に埋めることとしました。

マツも捕らえられ拷問がかけられることに。血が飛び散り、昏倒しながらも拷問が続けられました。最後までツルマツは自白せず、後に許されました。しかし、源九郎は許されることなく投獄。獄中でも拷問が続けられ、その間も念仏を唱え続けた源九郎でしたが、明治元年(1868年)、60歳で獄死しました。

信仰を貫いた哥丸源九郎

うたまるげんくろう

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!



大円寺(輝北町上百引)にある一向宗解禁100周年を記念した碑

源九郎の墓地には法名の刻印もない小さな墓石のみが建てられました。これは、最後まで自らの信仰を貫き、一向宗を守り抜いた源九郎へ、遺族と同志が役人に気を遣いながら行った精一杯の供養でした。